

# ありがとうの灯中

学校便り第24号  
令和8年3月16日  
福井市灯明寺中学校



先月上旬の3年生の学年集会で、入江先生が生徒たちに次のような話をしました。「先日、家庭訪問へ行った時のことです。生徒よりも早く家に着いてしまい、家の前で待っていると、その生徒がポリ袋を持って帰ってきました。不思議に思って『それは何?』と尋ねると、その生徒は『実は、学校から帰る途中に道路に落ちているゴミを拾っているんです』と答えたのです。受験という、どうしても独りよがりになりがちなこの時期に、このように毎日徳を積んでいる生徒がこの学年にいることを、とても誇らしく思いました。そして私は、一人の人間として、その生徒を心から尊敬しました」。生徒たちは、この話を真摯に受け止めていました。

いよいよこの『ありがとうの灯中』も、今回が最終回となります。中藤小学校長時代から私はずっと、相手を思いやる心と『ありがとう』の心を大切に、人のため、社会のために、主体的に行動できる人づくりに取り組んできました。振り返れば、中藤小での忘れられない出来事があります。ひとつは、ある夏の暑い日のことです。下校途中の子どもたちが、畑作業をしていた高齢のご夫婦を見かけ、「お疲れ様で一す！」と元気よく声をかけました。後日、奥様から届いたお手紙にはこう綴られていました。「厳しい暑さの中、主人も私も心身ともに折れかけていました。そんな時、子どもたちの温かい励ましに深く感動し、思わず涙がこぼれました。主人と共に感謝を伝えたく筆を執りました」。また、大雪の日のことです。玄関先で除雪をしていたお爺さんを見かけ、通りかかった数名の男子児童が進んで手伝いを買って出ました。この行動に感動された奥様から、お礼のお電話をいただきました。「長くここで暮らしていますが、これほど有り難いことは初めてです。ぜひ、あの子たちを学校でたくさん褒めてあげてください」と感激の想いを仰ってくださいました。

今世界では紛争が絶えません。この日本でも人を傷つけ、人の大切なものを平気で奪う悲しい出来事が後を絶ちません。しかし、私たちはこの日本という国に生まれ、今を生きる「日本人」です。ぜひ、私たち日本人が古来より大切にしてきた『おもてなしの心』や『ありがとうの言葉』の真の意義を今一度見つめ直し、忘れかけている「日本人としての自信と誇り」を取り戻しましょう。そして、この日本を、この世界を、そしてこの美しい「碧（あお）き地球」を、皆で愛に溢れる場所にしましょう。福井市灯明寺中学校長 佐藤 勉

## <第77回卒業証書授与式>

3月11日(水) 門出を祝う美しい青空の下、188名の卒業生が、数多くの思い出と強い絆を胸に巣立っていきました。今年の卒業生は、「灯中の3年生」はどうあるべきか、「先輩」とは何かをその姿で『手本』として示してくれました。特に「絆プロジェクト」では地域の人々を繋ぎ、ふるさとを大切に想う心を導いてくれました。後輩たちの『道標』となる素晴らしい学年でした。卒業おめでとう!



## <2年生:令和7年度立志式>



3月13日(金) 13時40分より、2年生177名による令和7年度「立志式」が挙行されました。実行委員による『2年間の歩み』の発表や『学年制作』が披露されました。『一人一訓』と『学年五訓』では、各自が掲げた志と学年の決意が全身全霊で表現されました。その気迫に満ちた誓いは、参列した人々の心を深く揺さぶるものでした。最後の学年合唱、『時を越えて』の清らかで力強い歌声からは、学年としての『覚悟』が伝わりました。